

## カトリック山手教会月報

## やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地  
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第656号 2024年10月13日

## 神さまが下さる、果てしないつながりの 広がりという恵み

主任司祭 ミカエル鈴木真



※このイラストは、教会学校の  
広報誌に掲載されているもの  
で、教会学校と鈴木師の許可を  
得て使用させていただきまし  
た。(編集部)

わたしが司祭になってから長く続いていること  
のひとつに、不二聖心女子学院と関わりがあります。

静岡県裾野市の丘の上に広がる、広大な自然豊かな環境の中にある、聖心会を母体とする学校です。敷地の中に「山の家」という山荘（大正時代に建てられたものだそうです）があり、長年にわたって教区や、さまざまな教会の合宿に使われていることから、わたし自身、子どものころから親しんでいるところでもあります。昔は行くのにもなかなか大変でしたが、東名高速の裾野インターができてからは、山手教会からも車で1時間半くらいで行かれるようになりました。わたしの出身の由比ガ浜教会の後輩で、この不二聖心女子学院の卒業生で聖心会のシスターになった知り合いがいることも加えて、学校とのかかわりも多くいただいています。

どのようなきっかけだったかももう忘れましたが、わたしが司祭になって間もなく、毎年9月に行われる高校1年生の「祈りの集い（黙想会のようなもの

で、二日に渡って行われるもの）」に講師として呼ばれるようになりました。以来なんと30年以上、毎年9月に不二聖心女子学院に行っています。そんなに長く行っていると、いろんなことが起こります。

もう10年くらい前でしょうか。わたしが百合ヶ丘教会にいた時、これもご縁で由比ガ浜教会と百合ヶ丘教会の教会学校が合同で、この不二聖心女子学院の山の家で夏の合宿を行いました。その時、由比ガ浜教会から参加していた一人の小学生が「わたし、この学校に入りたい」と言っていて、不二聖心女子学院の生徒になりました。何年後かに高校1年の祈りの集いでその子に再会した時（その時は、その子は雪ノ下教会の所属でしたが）、本当に感激しました。あの時のあの子が…といった具合に。その子もわたしのことを憶えていてくれました。

今年もまた、そのようなうれしい出会い、というか再会がありました。知り合いの娘さんが二人いたのです。一人は、わたしが由比ガ浜教会で一緒に青年会活動をしていた古い知り合いの女性の長女。小さい頃に会っていて、不二聖心女子学院に入ったと聞いていましたが、この学年だったのかー！と浦島太郎状態。もう一人は、わたしが茅ヶ崎の教会にいた時に知り合った二宮教会の女性の娘さん。まあまあこんなに立派に成長して…とこちらも感動し、二人と「お母さん元気？おじいちゃん、おばあちゃんは？」などと親戚のような会話をしてしまいました。

カトリックが全世界共通の教派であることは、何よりの強みであると実感します。どんなに離れてい

でも、何十年も会わなくても、意外な時に意外なところで、神さまが結んでくださる。そんな果てしないつながりの恵みを、また実感した今年の9月でありました。そして、来年も呼んでいただきました。楽しみに、また出かけたいと思います。